



森林とみどりのスケッチ大会に参加した皆さん＝監物台樹木園

国際森林年記念

親子で木々にふれあう  
スケッチ大会に142人が参加

4月17日、国際森林年記念およびみどりの月間(4月15日～5月14日)の行事として、「第7回監物台樹木園森林と緑のこどもスケッチ大会」を監物台樹木園で開き、一般公募による幼

児・小学生と保護者など142人が、園内に咲いている花や樹木などを、スケッチしました。暖かな春の日差しの中、参加者は各々お気に入りのポイントを見つけて、シートや椅子に座ったり、中には仰向けになるなどしながら真剣にスケッチに取り組み姿が見られ、美術家怒留湯誓先生から直接絵のアドバイスをしてもらい、家族で一緒にスケッチしたり、樹木や草花をじっくり観察しながらスケッチをする子など、思

い思いに画いた感性と個性が豊かな作品が次々登場し、出来上がりしました。その後、審査の時間を活用して押し花を使った「しおり作り」を行い、子供たちは、真剣な眼差しで押し

花を選び、名前やコメントを書き入れるなどオリジナルのしおりが出来上がり大盛況でした。

閉会式では、優秀作品の発表を行い、緑の普及大賞1点、緑の普及賞6点について宮城勇朗計画部長より表彰状と副賞の授与を行い、スケッチ大会を終了しました。作品は、監物台樹木園のみどりの交流館で4月19日～5月15日まで一般公開するとともに、入賞作品は来年度の「森林とみどりのカレンダー」に掲載する予定です。

また、当日は監物台樹木園を無料開放したこともあり、一般入賞者は次のとおりです。

- 緑の普及大賞 大庭巳佳
- タイトル「二の丸ジャングル」
- 緑の普及賞 佐藤玲太・漆島雄心・佐藤日向・吉村優莉加・田平心咲・瀬口紗也香

(担当：指導普及課)

平成23年度

重点的取組事項を記者発表

当局では4月22日、熊本経済記者クラブ14社と林政記者クラブ6社に、平成23年度の「重点的取組事項」を記者発表しました。

主な取組事項は、①「森林・林業再生プラン」の実現に向けた取組②九州の豊かな森林(生態系)を守り育てる取組③国民の安全・安心の確保に向けた治山事業の展開④国際森林年を踏まえた森林・林業の普及活動の推進などです。

(関連記事は2～3に掲載)



林政記者クラブ6社に記者発表

# 森林・林業再生の元年

## 九州から林業再生に向け施策展開

平成23年度  
重点的取組事項

九州森林管理局では、本年が「森林・林業再生の元年」であるとともに、国連が定める「国際森林年」であることを踏まえ、九州からの林業再生を目指して「森林・林業再生プラン」の実現に向けた各種の取組を推進していくほか、国民への幅広い情報提供などの施策を展開していきます。

### 「森林・林業再生プラン」の実現

民有林と連携した森林整備・人材育成の推進

「森林・林業再生プラン」の下、九州からの林業再生を目指し、民有林との森林共同施業団地の設定を通じた地域林業の振興に取り組みとともに、民有林

行政を支援し地域林業の推進役となることが期待されている「准フォレスター」の育成のための研修の実施など民有林の人材育成に貢献します。

(1) 民有林の森林所有者等との協定による森林共同施業団地の設定を通じ、効率的な路網整備や間伐の推進に取り組み、地域林業の振興に貢献します。

平成23年度は「一署一協定」を目標に団地設定に重点的に取り組めます。

(2) 本年度から行われる准フォレスター研修等において、熊本南部森林管理署管内等において、国有林を研修フィールドとして、また、職員を講師として派遣するなど民有林の再生のための人材育成への取り組みに貢献します。

林業の低コスト化と木材の安定供給

「森林・林業再生プラン」の実現に向け、新たな路網の整備、コンテナ苗の活用等による低コスト造林の取り組みを進め、森林施業全体を通じた低コスト化を推進します。システム販売の推進による国産材の安定供給と需要拡大を図ります。

(1) 「森林・林業再生プラン」に基づき、新たに作設指針が制定された「林業専用道」、「森林作業道」の開設等を行い、路網整備の加速化を図ります。

(4) 東日本大震災に対する復興用資材として、緊急要請があった場合には木材を優先的に供給することとしています。

・「林業専用道」については、九州国有林の地形に合った見本的な開設を行うとともに、これまでの林道開設に比して大幅な開設を進めます。また民有林への普及を図るため国有林において研修を実施します。

・「森林作業道」については、技術者の養成、現地検討会や署間の相互検証等を行い、一層の定着を図ります。また、国有林における研修の実施、民有林の研修等への指導者の派遣等を行います。

(2) 約20万本のコンテナ苗の植え付けおよび地植えの簡略化等による育林コストの低減に取り組みます。また研究機関と連携して試験地におけるコンテナ苗のデータ収集・公表を行い、民有林も含めて林業全般の経営コストの低減に貢献します。

(3) 国産材の安定供給・需要拡大に向け、大規模需要者との協定に基づく「システム販売」を推進するとともに、新たに小径木などの未利用材等の安定供給に取り組みます。また、民有林と連携した共同出荷を本格的に実施します。

(4) 東日本大震災に対する復興用資材として、緊急要請があった場合には木材を優先的に供給することとしています。

<森林・林業再生プラン>  
農林水産省では、平成21年12月に、我が国の森林・林業を早急に再生していくための指針として「森林・林業再生プラン」を公表しました。また11月には本プランを具体的に推進していくための「森林・林業の再生に向けた改革の姿」がとりまとめられたところです。

### <森林・林業再生に向けた改革の姿の骨子>

(平成22年11月)

#### 改革の方向

1. 森林計画制度の見直し
2. 適切な森林施業が確実に行われる仕組みの整備
3. 低コスト化に向けた路網整備等の加速化
4. 担い手となる林業事業者の育成
5. 国産材の需要拡大と効率的な加工・流通体制の確立
6. フォレスター等の人材の育成



10年後の木材自給率50%以上

森林の多面的機能の発揮、雇用創出、山村地域の活性化、低炭素社会構築への寄与

### 九州の豊かな森林（生態系）を守り育てる取組

2011年は国連の定める「国際森林年」であり、また、「国際生物多様性の10年」の最初の年です。

国有林は、原生的な天然林から人工林、高山帯など、様々な

タイプの生態系、生物が生息・生育している森林を多く有し、我が国の生物多様性の保全を図る上で重要な役割を担っています。

今後とも、保護林の設定等により森林の生態系や遺伝資源等の適切な保護・保全に努めるとともに、特に森林生態系への大

大きな脅威となっているシカ対策に取り組みなど、森林の一層の保全管理を推進します。

主な取組事項

- (1) シカ対策
  - ・屋久島や九州中央山地地域等で生物多様性への極めて大きな脅威となっているシカ被害対策（個体数調整等）

- (2) 世界遺産、貴重な森林生態系の保全管理
  - ・世界遺産（屋久島）の適切な管理

- ・保護林の新設（奄美大島、徳之島及び大隅半島）や拡充（西表島）による貴重な森林生態系、遺伝資源の保護

- (3) 動植物の生息地の保護管理
  - ・絶滅危惧種の生息状況のモニタリング、生息環境の整備等による保護管理

- (4) 普及啓発等
  - ・国際森林年や国際生物多様性の10年の初年を記念した森林・林業に関する各種シンポジウム、セミナー等の開催、情報の発信

※国際森林年

熱帯林を中心として森林の減少・劣化が続く中、2006年の国連総会において2011年の国際森林年とされました。国際森林年は世界中の森林の持続可能な保全と適切な利用に対する認識を高めることを目的とす

るもので、各国に対し積極的な取組が要請されています。なお、前回の国際森林年は1985年でした。

※国際生物多様性の10年

国連は、世界的に生物多様性の損失に歯止めがかからない現状を踏まえ、昨年末の国連総会において、2011年から2020年までの10年間を「国際生物多様性の10年」とすることを決定しました。今後、各国は生物多様性保全のための積極的な取組が要請されています。なお、毎年5月22日が生物多様性の日とされています。

### 国民の安全・安心の確保

国民の安全・安心の確保に向けた効果的な治山事業を展開します。

また、新燃岳噴火対策として、降灰状況や森林への影響の調査等を実施するとともに、関係機関と連携を図りつつ、森林の保全を含めた早期かつ効果的な治山事業等を実施します。

- (1) 安全・安心の確保に向けた効果的な治山事業の展開
  - ・国民生活の安全・安心を確保するため、民有林と連携を図りながら効果的かつ効果的に治山事業を展開します。
  - ・大規模な山地災害発生時にお



専門官による現地調査

ける都道府県支援のための職員派遣等を迅速かつ円滑に実施します。

平成20年に発生した岩手・宮城内陸地震時には、治山技術の有する職員3人を現地に派遣しています。

- ・木材の利用促進および溪流生態系保全に配慮した治山事業の推進を積極的に取り組みます。

- (2) 新燃岳噴火対策の推進
  - ・地域住民の安全・安心を確保するため専門家による現地調査をはじめ各種調査を実施するなど、降灰の状況や森林への影響などの確かな現況把握を基に、森林の保全を含めた必要な防災対策を実施するために治山全体計

画を策定します。

併せて関係機関との情報の共有及び連携を図りながら早期かつ効果的な治山事業を実施します。

### 国際森林年を踏まえた森林・林業の普及活動の推進

本年が国連が定める「国際森林年」であることを踏まえ、各種イベント、セミナー、ふれあい活動、情報の発信等を積極的に実施し、国際森林年、森林・林業への理解の増進に取り組みます。

主な取組事項

- (1) 国際森林年を記念して、宮崎県綾において、「国際照葉樹林サミットin綾」を5月に開催
- (2) 島原半島の雲仙岳噴火から20年が経過する節目の年であることから、国際森林年の記念植樹を今年秋に開催予定
- (3) 国際森林年のテーマが「森を歩く」であることを踏まえ、レクリエーションの森が広く親しまれるよう施設整備を推進するとともに、森林の安らぎ効果等の情報や実際に体験できる森林空間等に関する情報を提供
- (4) 子供達への森林環境教育活動の中で、国有林をフィールドとして行う体験活動、小学校教諭を対象とした「森の塾」、そ

の他学校等での森林環境教育において、特に国際森林年の意義、シカによる森林・林業への多大な圧力等について情報提供、教育

- (5) 九州間伐紙「木になる紙」（国民が支える森林づくり運動）は、消費者と森林・林業を結びつけることを一つの目的としており、この取組を通じて、国民全体での森林づくりに貢献

- (6) その他各種イベントを実施するとともに、森林・林業再生プランの初年度であることを踏まえ「木材自給率50%に向けて」等をテーマとした森林・林業セミナーを開催

（担当：企画調整室）



森林・林業セミナー



熊本南部森林管理署次長  
寺本 勝

九州百名山のひとつ「市房山」(1721㍎)は、熊本県と宮崎県との県境にそびえ立つ霊峰で、昔から「御岳」と呼ばれています。

熊本県では、国見岳に次ぐ高峰で、縁結びの神様として古くから親しまれてきた「市房神社」が建立されており、神社までの参道沿いには、樹齢千年ともいわれる巨大なスギがそびえ立ち、目を見張ります。

山頂には、ツゲ、フナが茂り、5月下旬には、熊本県指定天然



標高1721㍎の市房山の遠望

記念物のツクシアケボノツツジの群落が見事な花を咲かせます。

登山道は、3合目までは車両で行くことができ、十台ほどの駐車場があります。そこから登り始めるとスギの巨木に囲まれた参道となっており、1合目には、夫婦スギと言われる大きな2本スギが立ち、3合目の八丁坂の自然石の石段を登り、そこから40分ほどで赤い屋根をした「市房神社」が静かに迎えてくれます。ここから、本格的な山道となり、直立した仏岩が左手に見えるると5合目、馬の背越が

古くからの霊峰  
「市房山」標高1721㍎

6合目となっています。

6合目からは、シクザクな登りが続きますが、傾斜が緩やかになり、周囲の展望が見られるようになり頂上に達します。

頂上では、球磨盆地や日向灘、霧島連山をはじめ、九州の山々が眺望できます。

頂上付近から二つ岩方面へ行く、「心見の橋」(岩の間に挟まっている岩)があり、ここを通れる者は、善男善女しか渡れないと語り継がれております。往復約7時間半の行程となりますが、大すぎ群、歴史ある市



ゴイシツバメシジミ

房神社、頂上付近の奇岩など十分に満喫できるコースとなっておりますので挑戦してはいかがでしょうか。

当署では、市房国有林希少野牛動植物種保護管理事業により、「ゴイシツバメシジミ」の生息状況および食草のシンランの状況などを観察し、密猟防止の強化など、生息・繁殖に適した環境の維持改善を図り、委託事業で保護管理を行っております。

また、水上村が市房山近郊の森林の地形を利用し、森林浴効果を活用した「森林セラピー」の基地として認定を進めており、心とからだの健康の維持・増進の基地として注目されているところです。

平成23年度「実践・公開講座」受講者募集のお知らせ

九州森林管理局では、森林のもたらす様々な働きや大切さを理解していただくために「実践・公開講座」を実施しております。今年度も九州森林インストラクター会と共同開催する講座を計画しております。つきましては、皆様のご応募をお待ちしております。

平成23年度「実践・公開講座」実施予定表

講座名	実施日時	受講料	募集期間
第1回 葉の構造を学ぶ	6月19日(日) 9:30～12:00	200円	5月16日～6月10日
第2回 絵手紙	7月24日(日) 9:30～12:00	400円	6月20日～7月15日
第3回 クラフト	8月21日(日) 9:30～14:00	900円	7月19日～8月12日
第4回 草木染め	10月16日(日) 9:30～14:00	500～1400円	9月12日～10月7日
第5回 リース作り	12月11日(日) 9:30～14:00	700円	11月7日～12月2日

- 応募方法・・・各講座ごとに募集期間は上記のとおりです。はがきに住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話(FAX)番号を記入のうえ、下記までお申し込み下さい。(FAX可) 後日、実施案内(連絡通知)をお送りします。
- 募集定員・・・各講座とも30人程度とします。
- 応募締切・・・先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。
- その他・・・受講料は目安です。(材料代、資料代、保険料が含まれます。) 開催場所はすべて監物台樹木園となります。 ※注意: 駐車場利用の方は別途駐車料300円が必要となります。

〈お申し込み・お問い合わせ先〉九州森林管理局 指導普及課 (担当: 緑の普及係)  
〒860-0081 熊本市京町本丁2番7号  
TEL 050-3160-6637 FAX 096-326-7062

優良工事を施工した7社と  
技術者など4人を表彰

平成22年度治山・林道工事コンクールの表彰式を4月7日九州森林管理局で行い、コンクールでは、局で推薦した2社（治山工事1社・林道工事1社）が

林野庁長官賞に選出され、2月7日に林野庁で表彰されました。また、それ以外の工事でも、自主的な施工管理に積極的取り組み、品質管理、安全管理、林地保全などに配慮した優良な工事を施工した治山工事4社、林道工事3社に対して局長表彰を行ったものです。

なお、工事担当者などの意欲の高揚に資する観点から、林野庁長官賞を受賞した工事の担当



表彰状を手に喜びの皆さん

技術者ならびに監督職員に対しても局長表彰を行いました。受賞者は次のとおりです。

- 林野庁長官賞
  - 前奥治山工事
    - 〈宮崎北部署発注〉
    - 木田建設 株式会社
    - 代表取締役 木田壮一郎
  - 立花林道第一支線新設工事
    - 〈大分署発注〉
    - 株式会社 山崎産業

代表取締役 山崎司  
九州森林管理局長賞

【工事の部】

- 目丸内大臣（1057）治山工事
  - 〈熊本署発注〉
  - 株式会社 佐藤工務店
  - 代表取締役 佐藤正利
- 兵戸山治山工事
  - 〈大分西部署発注〉
  - 大政建設 株式会社
  - 代表取締役 森山弘子
- 檜治山工事
  - 〈西都府署発注〉
  - 株式会社 桑原建設
  - 代表取締役 桑原常雄
- 桜島地区治山工事（西道川本）
  - 代表取締役 栄倉 忠

流第3分派）〈鹿児島署発注〉

株式会社 徳永組

代表取締役 徳永光一

○鹿目林道12支線新設工事

〈熊本南部署発注〉

大富建設 株式会社

代表取締役 野崎 富人

○三十山林道48支線新設工事

〈都城支署発注〉

丸宮建設 株式会社

代表取締役 河野一治

○大谷添林道35支線新設工事

〈大隅署発注〉

有限会社 栄倉組

代表取締役 栄倉 忠

【技術者等の部】

林野庁長官賞受賞工事

「前奥治山工事」

○主任技術者 興梶慎二（木田建設株式会社）

○監督職員 農林水産技官 井孝次

○宮崎北部署（現局治山課）

「立花林道第一支線新設工事」

○主任技術者 池田重信（株式会社山崎産業）

○監督職員 農林水産技官 岡井邦仁

○大分署（現局森林整備課）

（担当川治山課）

これからの森林・林業を担う森林組合

当組合は、都城市を中心とする1市5町の合併組合で、今年12月で、発足30周年を迎えます。

合併当初、職員53人、作業班員235人でスタートして、現在は、職員23人、作業班員170人で森林整備等の事業推進を担っています。

管内の森林面積は、民有林22295畝、国有林21562



畝で、民有林の人工林率は、78%で、一組合員当たりの森林所



都城森林組合  
組合長

岩松 節男さん

有面積は、0・35畝位と雲細な所有形態となっています。また、当組合の平成21年度にお

業道開設1500畝、加工部門で、製材品製造6000立方畝でした。

現在、国の森林林業再生プランを推進するにあたり、森林施業プランナーを2人配置して、経営計画の策定、施業の集約化、等推進できる体制づくりを進めています。

る取扱高は、販売部門で、素材生産量38000立方畝、森林整備部門で、新植8畝、下刈り1505畝、除間伐57畝、作

います。造林、間伐等森林整備については、引き続き、現場担い手として、役割を果たしていきたいと思っています。

ところで、管内は、境界未確定森林が4割を占め、森林所有者を探すのに、大変苦労しています。八方手を尽くしても見つからず、諦めることもしばしばあります。立木売買においては、皆伐が増え、土地付きで所有者が、手放すことが多く、伐採跡地の植林も遅れ、未造林地も多くなっています。

また、世代交代による、森林所有者の森林に対する関心の低下等、施業集約化も、難しい一面もありますが、当組合としては、採算性を高め、組合員に少しでも還元できるように、これからの林業に明るさを、見出して



吉見 満雄さん

### 自然から学ぶ日本民族の知恵を復活したい!!

で、村立の学校や先生の住まいは総じてノキ造りの時代。戦後復興期の木曾谷は木材景気に湧き仲買人で溢れていた。

木曾谷を出た私は電子情報工学を学び世に出て、石油化学コンビナートで当時の最先端工業に従事した。その後、屋久島で

祖父が木曾谷の「御料林」を管理する営林署長だった縁で、街道十一宿の一つ、三留野(み

どの)の宿に父亡き後の私は預けられた。昭和5年頃のことだ。当時、木材は日本の基幹産業の一つであり、村の財政は豊か

農林業経営に転じ、島に駐在する林野庁や環境省の方々との交流から「国有林を取り囲む日本の自然環境は世界に誇る数少ない財産」であることを再認識。私と島と日本の将来を考えるよ

うになり、日本民族の精神文化の根底には神仏習合以来の自然崇拜が深く根付き今も脈々と生きていくことに気づいた。

若山牧水の「尾鈴山」や山頭火の「青い山」、漱石の「金峰山」、また、川端康成の「ノール賞受賞講演「美しい日本の私」より「春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえてすづしかりけり」(道元禅師)など日本の精神文化は外国にも発信され、自然への感受性に心ある外国人は深い感銘を受けた。

日本の自然の中で生きた日本民族の神髄は此処にあり、これこそ、

か。人工林が増えたとはいえ、自然植生・生態系は残っており、むしろ、私達の「自然への感受性・崇拜の心が薄れてきたのではなからうか?。

九州が東京に、日本が世界に誇り得る数少ない「公共財」として、森林・林業・国有林を据え直すささやかな努力を私はいたい。

東京都内で、都内の人々をまかなうだけの酸素や水は作れま

すか?東京で心の癒しの場や自然の循環の中で生きる敬虔さを学べる場はできますか?東京で発生する産業廃棄物処理場を都内に作れますか・・・?

これらを支えているのは、私達を取り囲む豊富な森林・林地・国有林なのではないかと私は思います。林野行政マンの力を日本に。国家百年の計に振り向けていただき、世界に例のない『百年連作の稲作農業』、『千年残る木造建築』、『生物多様性から精神文化を感受』のために残していただきたいと思っています。

(鹿児島県鹿児島市在住)

## 新任挨拶 どうぞよろしく

平成23年4月1日付けの異動により交代した9人の新課長・森林管理署長を紹介します。



たなか のりかず 田中 則一

### 総務課長

年齢 56歳

出身地 熊本県

抱負 前職では大変お世話になりました。国有林にとって極めて重要な時期であることを肝に銘じ、新たな気持ちで円滑な業務運営に取り組みで参りたいと考えていますので引き続きよろしくお願ひします。



い ひろつぐ 井 廣二

### 職員厚生課長

年齢 57歳

出身地 熊本県

抱負 心身ともに健康で災害のない明るい職場づくりに取り組んでいきたいと考えていますのでよろしくお願ひします。



さこぐち ちかし 迫口 親

### 経理課長

年齢 54歳

出身地 熊本県

抱負 局署等の生活費においても、例年以上の厳しい予算執行になるかと思いますが、連絡・調整を図りながら円滑な業務運営に向けて取り組んで参りますのでよろしくお願ひします。



かわはた みつろう 川畑 充郎

### 販売課長

年齢 49歳

出身地 鹿児島県

抱負 九州国有林をますます発展させるために、微力ですが一生懸命に各種課題に取り組んでいきたいと思ひますので、引き続きよろしくお願ひします。

## 国有林野管理課長



はまだ しゅういちろう

濱田秀一郎

年齢 49歳

出身地 鹿児島県

抱負 局内各署等との連携を密にして円滑な業務運営に努め、健康で明るい職場づくり、親しまれる国有林であるよう取り組んで参りたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

## 長崎森林管理署長



なかはら かずのり

中原 一則

年齢 56歳

出身地 熊本県

抱負 初めての長崎勤務ですが、家族を含めて健康で災害の無い明るい職場づくりと、地域の皆さんの理解と協力を得て民・国連携した森林整備に取り組みますのでよろしくお願ひします。

## 熊本森林管理署長



やまべ てつふり

山部 哲経

年齢 58歳

出身地 熊本県

抱負 本年は森林・林業再生プラン元年。職員とともに、安全面に最大限の注意を払いながら、知恵を出し合ってプランの実現と円滑な事業実施に向けて邁進したいと思ひます。よろしくお願ひします。

## 宮崎北部森林管理署長



ほり ゆきお

堀 幸夫

年齢 52歳

出身地 北海道

抱負 初めての九州勤務となります。災害のない健康で明るい職場づくりと、地域の特性を活かした森林づくりに努めて参りたいと考えています。よろしくお願ひします。

## 鹿児島森林管理署長



もりもと よしはる

森本 義春

年齢 55歳

出身地 熊本県

抱負 久しぶりの署勤務です。再生プランの具現化をはじめ、新燃岳、桜島等々多くの課題がありますが、当署の素晴らしいチームワークの下、業務運営上不可欠な一層の安全確保と明るい職場雰囲気醸成に努めつつ、民・国の連携を密にしながら積

極的な取り組みを行いたいと考えます。引き続きよろしくお願ひいたします。

## 森林整備推進協定を調印

【大隅森林管理署】民・国が

連携し、森林の整備を行う森林共同施業団地を設定する目的で、4月26日、鹿児島県大隅半島の内之浦地域において鹿児島県、肝付町、(株)島津興業、小手川林業の4団体と当署において、各団体の代表者と関係者が出席する中で、森林整備推進協定の調印式を行いました。昨年6月に、検討会を立ち上げ熱心な協議のもと、低コスト林業に向けた効率的な路網の作設、システム販売による間伐材の共同出荷



調印を行った4団体の代表者と当署＝大隅



東日本大震災から一ヶ月が過ぎ、被災地は復興に向け動き出してきた。

私も4年前まで、東北

## 震災の被災地へエールを！

できることをしっかりと表行に移し、

局の宮城北部署に勤務し、今回壊滅的な被害を受けた東松島市、石巻市、女川町、南三陸町、気仙沼市などを管轄していたので、今回の災害には大きなショックを受けている。在動中には、東

一方、ここ宮崎も昨年度は口蹄疫、鳥インフルエンザ、新燃岳の噴火などの自然災害に矢継ぎ早に見舞われ、農家を中心に地域全体が大変辛い経験をしたが、そのような中、東北、関東

九州の力を結集して被災者に笑顔が戻るまで被災地へエールを送り続けようではないか。  
(宮崎南部森林管理署長 日高瑞記)

## 登山ルートに道標設置

【宮崎北部森林管理署】自然散策やトレッキング人気の高まりとともに入山者が増加傾向にあり、祖母山周辺での山岳遭難が相次いでいることから、「高千穂山の会」を主体に「祖母山道標設置連絡会」を設立し、高千穂山の会や宮崎県、西臼杵支庁、当署職員など13人が参加し、26枚の道標を設置しました。また、危険な箇所には、ロープを張るなど注意喚起を行いました。



道標を設置する参加者＝宮崎北部

## 小学生が植樹体験

【大分西部森林管理署】宇佐市安心院町の国有林で、宇佐市立深見小学校福貴野分校の児童4人が祖父母とヤマザクラとヤマモミジの植樹を体験。植樹後は、獣害防止のため幼齢木ネットの設置作業を実施。児童らは、



植樹体験した児童と祖父母ら＝大分西部



樹木では春一番に淡黄緑色の葉を開き春を告げます。ニワトコは一本立ちでなく数本のぼう芽(そう生)が控えています。これは樹軸(幹)が枯れたり風で倒れたりして空間ができると、他の植物の侵入を防ぎ、その空間を確保するための工夫をしています。

新芽は山菜としてもおいしいですが食べ過ぎると利尿作用が強いため翌朝トイレと仲良くなってしまう。特に花の作用が強いので食べない方がいいでしょう。

ました。今後は、春の桜、秋の紅葉を楽しむに下刈などの手入れを行うことにしています。

## 請負事業体等安美大会を開催

【西都児湯森林管理署】当署事業実行中の請負事業体の関係者ら40人が参加し請負事業体等安全大会を開きました。当署からは国有林野事業における重大災害の事例や類似災害防止に向けた留意事項などを説明。請負事業体2社から、安全に対する取り組みを発表いただき貴重な



発表を熱心に聞く参加者＝西都児湯

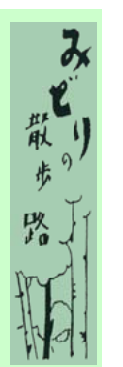
話を聞くことができました。最後に無事故・無災害を誓い有意義な安全大会となりました。

## ④④ ニワトコ(スイカズラ科)

枝を切って観察すると褐色の太い髓が観察されスイカズラ科であることが分かります。

昔は骨折や打撲の治療には、ニワトコの枝を黒焼きにして、うどん粉と食酢を入れて、練ったものを患部に厚く塗って、副木をあてて治療をしたというところから、接骨木(せつこつぼく)という漢名があります。日本名は不明です。初級の森のキノコ探しは、ニワトコかアカメカシワの倒木を見つけ、詳細に幹を観察するとキクラゲを簡単に見つけることができます。キクラゲ類には毒がありませんので安

心して食べられます。樹木園では西側中央、キハダの手前にあります。



快晴となったゴールデンウィークの初日、久しぶりに娘と「森を歩いた」。10年ほど前、久住山を訪ねたが、園児だった娘の記憶には新鮮に残っているようだ▼今回、大分森林インストラクター会主催の「新緑を楽しむ」・「IN山下の池」(大分県九重町)のテーマで、新緑の森を歩いて自然観察を楽しもう!山菜を採取し自然の恵みを楽しもうという企画である▼80年生の杉林の林道を歩くと道脇にはハナイカダやケクロモジ、サンショウなどの木本たちが若葉を展開し始めている。下層にはイカリソウやフタリンツカノの白い花、キジムシロやキスミレの黄色い花、エイザンスミレやタチツボスミレと色とりどりの花が春を告げている▼タラの芽やオニウコギ、コシアブラなどの新芽を収穫。また、ワラビやモミジガサなど森からの贈り物を天ぷらにして味わうなど自然のすばらしさを満喫した一日となった▼一方、「新燃岳噴火」「東北関東大震災」と自然の計りしれない力が大きな災害をもたらした。子どもたちにとどのような記憶として残ることだろう(晴)